

公益財団法人 福武財団

地域振興助成 2019年度採択事業 活動紹介

それぞれの歴史や固有の環境を背景とした、

個性と魅力溢れる地域が日本各地で継続、発展していくことを期待し、

そのための活動を行う団体や個人に助成を行っています。

公益財団法人 福武財団

「Benesse (=よく生きる)」

文化・芸術によって、活力溢れた、個性豊かな地域社会の発展に貢献します。
福武財団は、日本の近代化の流れの中で行われてきた破壊と創造の繰り返しを見直し、「在るものを活かし、無いものを創る」を信条に、人々がよりよく生きる地域をつくること、お年寄りの笑顔が素晴らしい地域をつくることを目指し活動しています。

お問い合わせ先

公益財団法人 福武財団 助成部門

〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel 087-892-2655

■瀬戸内海地域振興助成

E-mail: uketsukesenyo@fukutake-artmuseum.jp

■アートによる地域振興助成

E-mail: development@fukutake-artmuseum.jp

ごあいさつ

地方の衰退が言われながらも、残念ながら、日本では東京一極集中の勢いは止まる気配がありません。そのような中、当財団では“在るものを活かし、無いものを創る”を信条に、よく生きる地域をつくること、お年寄りの笑顔が溢れる地域をつくることこそが、これからの時代には最も重要と考えています。何故なら、幸せになるには幸せなコミュニティに住まねばならない。そして、その幸せなコミュニティとは、人生の達人であるお年寄りの笑顔が溢れている場所であるという信念があるからです。

今年、瀬戸内国際芸術祭は第4回目を迎えますが、瀬戸内の島々にも変化が起きてきています。昨今地方の人口減少が大きな話題となっていますが、芸術祭に参加しているいくつかの島では人口増が見られるところも出てきました。地域住民と移住者や発想豊かなアーティスト、彼らをつなぐサポーターのコラボレーションは、それまでに想像もできなかった化学変化を起こし、素晴らしい地域づくりにつながっています。私は日本の再生には、個性や魅力のある地域の集合体となることが欠かせないと思っています。瀬戸内国際芸術祭が他の地域の活性化に少しでも参考になればと願っています。これからも地域の方々に自信と誇りを持っていただけるよう、当財団としても努力していく所存です。

各地域で活躍している皆さまに当財団の助成事業に関心を持っていただき、あるいは実際に助成を受けていただくことによって、各地の力が結集し、新たな創造や知恵が生み出されることを期待しています。

2019 年 6 月吉日



公益財団法人 福武財団
理事長

福武 総一郎

福武財団について

公益財団法人 福武財団は、2004年に、地中美術館開館を機に設立された「直島福武美術館財団」を前身としています。2012年10月、基本理念を同じくしながら、それまで独自に活動が続けてきた「福武学術文化振興財団」と「文化・芸術による福武地域振興財団」を吸収合併し、新たに「公益財団法人 福武財団」を設立しました。

福武財団は、より戦略的にいきいきとした地域社会づくりに貢献することを目指し、ここでの実践を日本全国、さらには世界に発信し続け、変革への志を持つ人々と共有し、個性と魅力に溢れた地域作りに貢献していきます。

1. 美術館事業

美術館活動による地域の活性化



地中美術館（香川県直島）

写真：藤塚光政

2. 助成事業

アートによる地域振興助成および
瀬戸内海地域振興助成



2016・2017年度 文化と芸術による地域振興の助成
成果発表会（2018年実施／新潟県十日町市）

3. 自主・共催事業

文化・芸術を振興する国内外の交流事業
（芸術祭の共催、シンポジウムの開催等自主事業）



自主・共催助成 豊島唐櫃棚田プロジェクト（香川県豊島）

助成事業の改定について

福武財団では、それまで「福武学術文化振興財団」が行ってきた「瀬戸内海文化研究・活動支援助成」と、「文化・芸術による福武地域振興財団」が行ってきた「文化と芸術による地域振興の助成」を引き継ぎ、継続して実施してきました。しかし、それぞれの助成プログラムが10年以上経過し、アートの趨勢や地域の実情に合わせていく必要が出てきました。また、福武財団そのものが瀬戸内国際芸術祭の開催協力を行うなかで、より地域との関わりを深めてきたことから、2017年に助成事業の改定を実施しました。

新しい助成プログラム、「地域振興助成」について

助成事業改定にあたり、統合以前の2財団から引き継いだ事業を地域振興という、共通の目的の下に統合・再編し、「地域振興助成」としました。「地域振興助成」は「アートによる地域振興助成」と「瀬戸内海地域振興助成」の2つの助成プログラムで構成されています。助成対象となる活動は、地域住民と地域に関わる人々の創造的で文化的な表現活動を通じた、まちづくり、地域産業おこし、関係人口の増加や移住・定住の支援です。その結果として、活力溢れる個性豊かな地域社会の実現と発展に寄与することを目指します。

瀬戸内海地域振興助成

瀬戸内海地域の文化力向上に資する、伝統芸能・工芸の振興、地元産品を活かした地域産業おこし、古民家の改修・保存・活用などの活動を通して、瀬戸内海と関わりを持ち、移住・定住に結びついていく事業を対象としています。

アートによる地域振興助成（事業助成）

現代アートのもつメッセージ性を軸としながら、地域住民や行政と協働し、その土地の独自性を生かした地域文化の振興に資する事業を対象としています。事業助成は、日本国内におけるアートプロジェクトの立ち上げと継続的發展を目的として助成をしています。

瀬戸内海地域振興助成 2019年度採択事業 活動紹介

UターンやIターンで島に住み始めた若い世代が立ち上げた活動や、
消えゆく島の歴史・民俗を後世に引き継ぐための活動、
伝統工芸とプログラミングを結び付けた事業など、
瀬戸内海地域の特性をとらえ、地域を元気づける活動を採択しました。



**塩屋布団太鼓による子供巡行活動
(兵庫県神戸市)**
塩屋青年会
代表者名／岸部克俊

塩屋地区の布団太鼓は1960年頃に一度廃絶となったが、2008年に約50年ぶりに復活した。塩屋布団太鼓巡業は年々地域の多くの方が参加し、世代交流の場となっており、祭継承のための活動を行う。

Facebook:
<https://www.facebook.com/shiyoaseinen>



**三原だるまプログラミング教材で、地域を興す!!
(広島県三原市)**
一般社団法人RoFReC
代表者名／岡田吉弘

三原三大祭りの一つであるだるま市（神明市）は地域の賑わいを創出している。そこで、三原の伝統工芸品である「だるま」を活かした小学生向けプログラミング学習のカリキュラム、教材を確立し、学校教育の場へ貢献することで、裾野が広い地域振興を目指している。

Website: <https://www.rofrec.jp/>



**小豆島サイクルツーリズムの学び
(香川県小豆島)**
一般社団法人小豆島サイクルツーリズム推進協会(SCTA)
代表者名／須藤渚

小豆島は、素麺、醤油、佃煮、ごま油、オリーブ等の産業が盛んな地域。そこで、新たにサイクリングを小豆島の観光コンテンツにすることにより、観光の活性化、交流人口の増加による移住促進を目指している。

Website: <https://shodoshima-cycle.org/>

アートによる地域振興助成 2019年度採択事業 活動紹介

今年度採択されたものは、地域のとらえ方やそれに対応する活動内容の変化を反映しており、
ローカル線や港湾の空倉庫、現代社会の中で忘れ去られそうな資産を活用した事業や、
伝統芸能とのコラボレーションなど、
地域を舞台にしたアートプロジェクトの категория が拡がりを見せています。



**飛生芸術祭2019「僕らは同じ夢を見る」
(北海道白老町)**
飛生アートコミュニティー
代表者名／国松希根太

木造校舎と周囲の森を展覧会場として多様な表現をお披露目し、たくさんの方々と出会い交流する芸術祭。2018年は、北海道を襲った台風と大地震の影響により開催中止となったが、2019年は倒木や作品破損という状況を乗り越え、もう一度「僕らは同じ夢を見る」ために芸術祭を開催する。

Website: <https://tobiu.com/>



**みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ
(山形県山形市)**
学校法人東北芸術工科大学
代表者名／根岸吉太郎

東北芸術工科大学が主催し、山形市で2年に1回開催する、現代アートのフェスティバル。2020年の開催に向けたプレプログラムとして、2019年はアーティストおよび教員による市民参加型プロジェクトを展開する。

Website: <https://biennale.tuad.ac.jp/>



**さどの島銀河芸術祭推進プロジェクト
(新潟県佐渡市)**
さどの島銀河芸術祭実行委員会
代表者名／吉田盛之

佐渡島の自然や歴史、点在する民話や伝承を掘りおこし、島内外からの刺激とともに新しい創造空間をつくり出し、「銀河」のようなきらめきや美的価値観を創造していくことを目的として芸術祭を開催する。

Website: <http://sado-art.com/ja/>



**女木ふれあい場所づくり
(香川県高松市女木島)**
鬼ヶ島活性化委員会
代表者名／三島恵子

女木島は、高松よりフェリーで20分弱の場所に浮かぶ風光明媚な島だが、限界集落化が進んでおり、将来に向けた島外との連携を目指している。島民と来訪者が交流できる居場所づくりを行い、島の農産物等を使ったワークショップを開催し、生産者との交流を通じて女木島の魅力発信を行う。



**芸予諸島に残存する古民家を住み継ぐための持続的・実践的活動
(愛媛県今治市大三島)**
日高仁／関東学院大学+西澤高男／東北芸術工科大学
代表者名／日高仁

大三島は過疎化が進み、空き家が増加し、他の島嶼部と同様大きな問題となっている。地元NPO団体と協働で築100年を超える古民家を活用のイメージが沸く状態にまで整備し、古民家が住み継がれていくための活動を行う。



**坂出市与島地区の歴史と民俗調査
(香川県坂出市与島地区)**
代表者名／濱本敏広

地域から消えてしまいそうな伝統や歴史、文化を地域の方々より聞き取り調査を行い冊子を作成する。その冊子を基に、小中学校や公共施設への配布、島歩きガイド、講演などを行い、地域の記憶を後世に残す活動を行う。



**直島の特産品を開発しよう!
(香川県香川郡直島町)**
直島いちじくプロジェクト
代表者名／山岸正明

島内にある荒れ果てた休耕地を再生し、直島の新たな特産品として、いちじくを栽培、ブランド化を目指す。育てたいいちじくを島内飲食店で使用してもらい、世界中からやってくる観光客へ直島いちじくを提供し、直島の新たな魅力を創造する。

Instagram:
https://www.instagram.com/naoshima_fig/



**城内農民芸術祭
(岩手県胆沢郡金ヶ崎町)**
金ヶ崎芸術大学校
代表者名／千葉周秋

江戸時代の町並みが残る重要伝統的建造物群保存地区における「保存物件の空き家化」にスポットを当て、芸術と社会教育（生涯教育）に基づく課題解決に取り組む。武家屋敷を拠点に整備を進める「金ヶ崎芸術大学校」では、農作業や作庭、年中行事を通して創造的な生活を実践するための場づくりを試みる。あわせて、9月～11月をコア期間として開催する芸術祭では、「生活の芸術化」を志向した宮澤賢治の「農民芸術」概念の現代的解釈に根差したワークショップやリサーチプロジェクトを複合的に展開する。



**Don't Follow the Wind
(福島県)**
Don't Follow the Wind実行委員会
代表者名／卯城竜太

福島県の帰還困難区域内外および周辺地域にて活動し、立入制限区域にまつわる事柄を多様な角度から考察し、芸術作品を媒介として国内外へ広く伝えることを目的としている。今まで記録してきた映像に加え、福島県の避難区域内外での新たなインタビューを継続撮影し、将来帰還困難区域が解除された際に開催予定の展覧会に向けて制作活動を行う。

Website: <http://dontfollowthewind.info/>

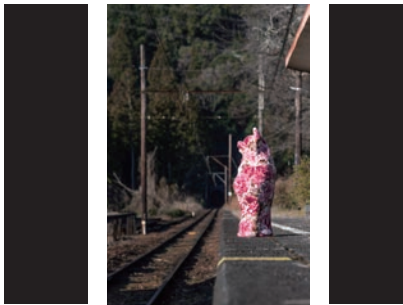


**TOKYO CANAL LINKS(HANEDA-TENNOZ-TAKANAWA)
(東京都太田区、品川区、港区)**
TOKYO CANAL LINKS実行委員会
代表者名／中野貴輔

運河によって東京の歴史や文化をつなぎ、“東京”を国際的な“TOKYO”へとつなぐ架け橋とするアートプロジェクト。地域の歴史、文化を紐解き、エリア内の鉄工所や工場を利用し、このエリアならではの祝祭、フェスティバルの在り方を提案している。

Website: <https://tokyocanallinks.com/>

アートによる地域振興助成 2019年度採択事業 活動紹介



UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川
(静岡県島田市)
特定非営利活動法人クロスメディアしまだ
代表者名／大石歩真

「無人」と呼ばれるエリアにおけるアートを手法とした地域再生の取り組み。地域を掘り起こし、アーティストが作品を表現し、「無人駅の芸術祭」を開催する。集落の豊かな暮らし、文化、食などを表現し発信している。

Website: <http://unmanned.jp/>



釜ヶ崎芸術大学・大学院2019
(大阪府大阪市西成区)
特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋
代表者名／山田假奈代

釜ヶ崎というまちを大学にみたく、「学び合いたい人がいれば、そこが大学」をキャッチフレーズに、2012年から続く大学。高齢化によって日雇い労働者のまち寄せ場が消え、人生の記憶と記録を表現する場として立ち上げる。

Website: <http://cocoroom.org/>



のせでんアートライン2019
(兵庫県川西市・川辺郡猪名川町、大阪府豊能郡豊能町・能勢町)
のせでんアートライン妙見の森実行委員会
代表者名／三好庸隆

兵庫・大阪をまたぐ能勢電鉄沿線地域と、その周辺地域を舞台に2013年から2年に一度開催している芸術祭。アート表現を通じて地域の魅力を広く伝え、新たな価値を生み、参加者間の交流により新たなつながりが生まれることを目的としている。

Website: <http://www.noseden-artline.com>



びんごトリップトラベル
(広島県)
クシノテラス
代表者名／榎野展正

備後地区を中心として、市民を中心とした芸術祭を開催。地域に残る伝統行事や、文化資源、創作者のアトリエなどを、県外から招聘したアーティストや専門家、参加者とともに訪問する。相互交流の中で、住民の生活そのものが「表現」であることが認識され、地域が活性化されることを目的としている。

Website: <http://www.kushiterra.com/>



瀬戸内国際芸術祭参加プログラム「海のテラス」
(香川県 高見島)
代表者名／野村正人

世界の人々が訪れる瀬戸内国際芸術祭の場所で、食のプログラム(瀬戸内海を見渡す絶景の食事の場所が、地元と世界の人々が出会う場所に)を創り上げる。



五島海のシルクロード芸術祭
(長崎県 五島列島)
特定非営利活動法人BaRaKa
代表者名／片岡優子

アート活動を島にある宝とコラボレーションの形で新たな視点を生み出す。本年度は五島神楽とコンテンポラリーアートの融合を提言する。人口減少が進む島で、サステナブルに幸せに生きていくヒントを共有できる祭を提案している。

Website:
<https://tayutau510.wixsite.com/baraka>



下町芸術祭2019
(兵庫県神戸市長田区)
新長田アートコモンズ実行委員会
代表者名／藤野一夫

神戸市長田区南部の下町を舞台に2年に1度開催しているアートフェスティバル。阪神淡路大震災から20年経った2015年に実行委員会を組織し、新たなインフラを整備することではなく、被災地というキーワードから抜け出し、地域の魅力を作品を通して地域住民や来訪者に提示している。

Website:
<https://www.shinnagata-artcommons.com/>



紀の国トレイナート2019
(和歌山県田辺市)
紀の国トレイナート実行委員会
代表者名／廣本直子

12の海辺のまちを走り抜けるJRきのくに線の列車と駅舎、そして周辺地域を舞台とする芸術祭。本年度は、走行する列車の車窓から紀伊半島の風景の中に作品を鑑賞する。芸術を通して人と列車の新しい関わりを見つめ、関わる全ての人と共に表現することを目指すプロジェクト。

Website: <http://trainart.jp/>



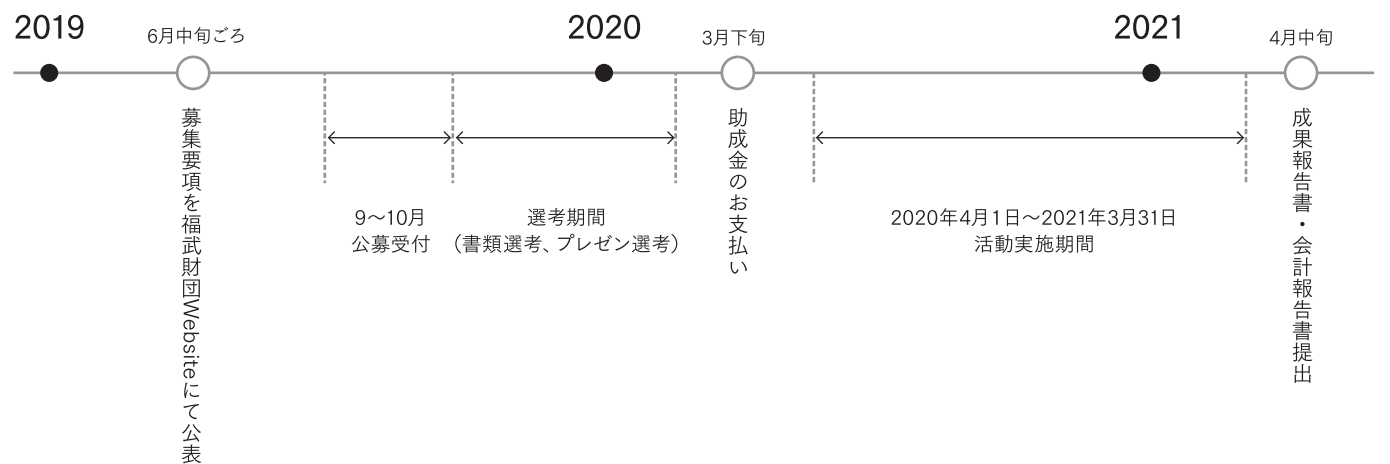
乙1731 GOEMON HOUSE
(広島県尾道市)
特定非営利活動法人ART BASE 百島
代表者名／柳幸典

地域の文化資源を保全しながら百島に長く滞在し、観光客と地域住民がアートを通じてより密接に交流する機会を生み出すことを目的として、廃屋となっていた民家を、アートと宿泊ができる施設として再生し活用している。

Website: <http://www.artbasemomoshima.jp/>

2020年度 助成活動 公募のスケジュール

瀬戸内海地域振興助成ならびにアートによる地域振興助成



過去の助成実績は福武財団Websiteからご覧ください。※2020年度の公募については、2019年6月中旬頃、福武財団Websiteに掲載予定です。

詳しくは

<https://fukutake-foundation.jp/>

福武財団



検索

